

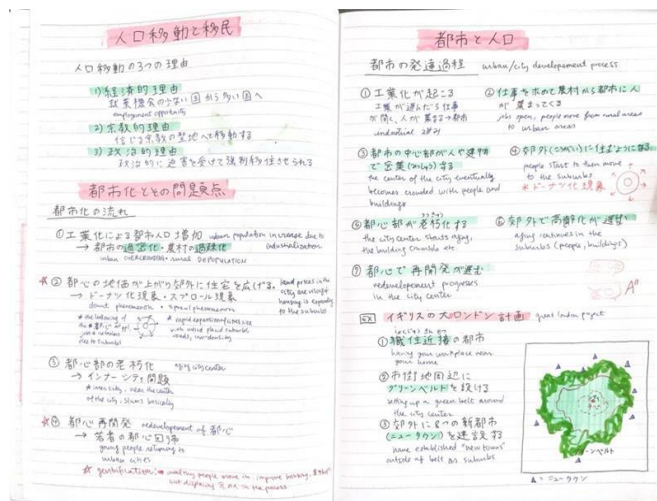
令和6年度『国際地理』実施状況

1. 授業風景



2. 生徒レポート・作品 (抜粋)

①



②

3. 移民の出身国と移動する理由

移民出身国	割合	移動する理由・受け入れる理由
インド	46.40%	モディ首相が握る政権の中心に立っている。インドへの移住。(仕事と教育面の理由が多い)
フィリピン	11.03%	貧困問題やフィリピンの年金状況など。移民生活の不安。
中国	10.18%	グローバル・ラッシュによってサンフランシスコやシリコン・バレーに移住する中国人が増加したから。移民生活の不安に悩む。
ナイジェリア	6.56%	ナイジェリア人の長年、移民生活の不安に悩む。ナイジェリア人が移住先で働くことが多くある。
カメルーン	5.86%	政治的な不安定さや移民先で働くことが多くある。安全のためにカメルーンに移民生活を送ることが多い。
その他	19.91%	先進国であるカメルーンは移民生活を送ることが多い。そのため、移民生活を送ることが多い。

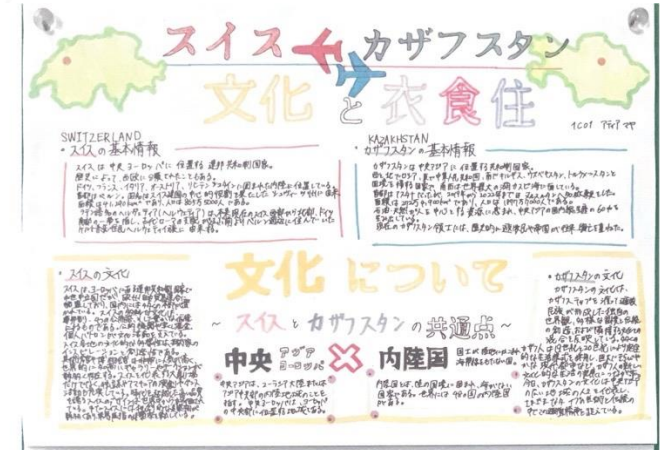
その国の移民受け入れの背景や移民によってその国が抱えている課題などをまとめてみよう!!

- ・カメルーンの人口が少なく、高齢化が進んでいるため、移民受け入れの必要性が感じられる。
- ・「多文化主義 (multiculturalism)」を国の方針として採用し、移民の多様性を活かす。
- ・移民の多様性を活かすことで、国際的な競争力の向上。
- ・移民の多様性を活かすことで、移民生活の不安に悩む人々を支援し、移民生活を送ることが多い。

例: シリア難民 / ウクライナ難民 など...

トランプの移民受け入れ国となっている。

③



3. 成果 (授業評価アンケート等から見た成果)

- 世界各地の地理的特徴や社会・文化の違いを比較することで、地理的な知識がより実践的・体系的に身に付いた。
- プレゼンテーションやディスカッションを通して、自国と他国の地理的・文化的特徴を比較しながら考察する力が養われた。
- 異なるバックグラウンドを持つ生徒同士が意見を共有し合うことで、国際的な視点や多様性への理解が深まった。